

信用格付・スコアリングモデル構築支援

信用リスク計測手法の高度化の流れ

2007年3月末から国内で施行されているバーゼルIIでは、信用リスクを標準的手法もしくは内部格付手法のいずれかで計測することになっています。これらの手法のうち、より正確に信用リスクを計測できる内部格付手法を導入される金融機関が増えており、今後、その導入が求められるようになってくるものと思われます。

内部格付手法では、信用格付・スコアリングモデルを使ってデフォルト確率(PD)、格付を推計することになります。

信用格付・スコアリングモデル構築のメリット

•マーケット特性の反映

お客様の内部データを用いてモデルを構築するため、エリアや顧客層などのマーケット特性を反映した納得感のあるモデルを構築できます。

•運用面の考慮

現場での運用を考慮して、モデル開発担当者以外の利用者(融資担当者など)にも意味がわかりやすく、使いやすいモデルを構築します。

信用格付・スコアリングモデル構築の課題

モデル構築では大量のデータを処理でき、高度な統計解析手法を利用できる分析環境と、モデルに取り入れる財務指標の選定や解析手法の適用に関するノウハウが必要になります。

バーゼルIIの信用リスク計測手法として内部格付手法を採用するためには、金融庁の承認が必要です。承認のためには、信用リスク管理体制の整備などの要件を満たす必要があります。

このモデルは貸出判断など重要な業務で用いられるため、高い精度が求められます。しかし、その精度を検証するための評価の定まった手法はありません。

提案のポイント

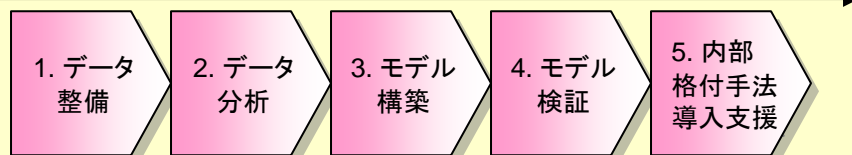
FRIのデータ分析環境を活用し、分析を短期間で行います。スコアリングモデル構築を含めた企業財務の分析に関する豊富な経験に基づいてモデル構築をご支援いたします。

モデル構築だけでなく、内部格付手法導入についての全般的なコンサルティングをご提供いたします。モデル構築段階からバーゼルII対応を視野に入れて全面的にご支援いたします。

CAP曲線、AR値、ブートストラップ法など、よく用いられる統計的な手法以外にも、独自に考案した手法なども用いてモデルを多面的に検証します。

信用格付・スコアリングモデル構築フロー

3~6ヶ月



1. データ整備

用意していただいたデータから財務比率を計算します。必要に応じて異常値の検出・除外や対数変換などを行いません。用いる財務比率は弊社の過去の研究やコンサルティングの実績に基づいて提案いたします。

2. データ分析

財務比率を業種別に分析し、業種要素をどのように取り入れるか検討します。

3. モデル構築

ロジスティック回帰分析などの統計的手法を用いて、財務比率とデフォルト実績のデータからPDや格付を求めるモデルを構築します。

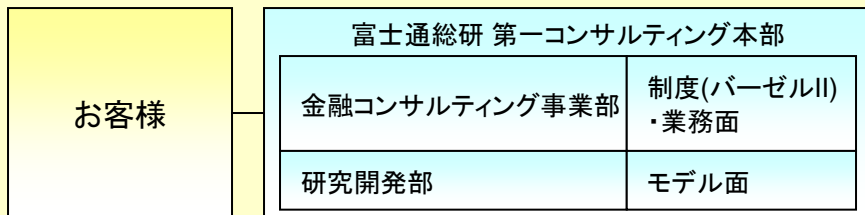
4. モデル検証

モデル構築時に使用したデータを用い、CAP曲線、AR値などを用いて精度を検証します。また、ご要望に応じて、外部データや従来の格付などとの比較を行いません。

5. 内部格付手法導入支援

バーゼルIIの信用リスク計測における内部格付手法の採用に向けてご支援いたします。

体制



実績

- スコアリングモデル構築支援: 地域金融機関10社
- 内部格付手法導入支援: 6社